

北村山高校生 Presents

尾花沢を元気にします

きた★スタ!



『キタム生の、コロナに負けない』
新たな挑戦!!

vol.53

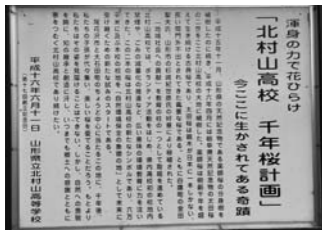
地区高校総体壮行式は屋外で実施



放送室からの生徒総会進行



コロナ対策万全の生徒会総会準備



北村山高校のSDGs

『挑戦します。北村山高校生』
市民の皆さんは、北村山高校の『千年桜計画』をご存じですか。千年桜計画とは、校庭に植樹した2本の古典桜をシンボルとして、北村山高校の広大な敷地と自然と共にこの地域を千年先まで美しいままに子孫に伝えていこうという計画です。実は、この計画こそ2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」そのもののなのです。しかし、『千年桜計画』のことをお話しても「何ほいず」と分かってもらえません。そこで、今年度からTwitterやInstagram、もちろん紙面でも北村山高校生の学校生活の様子や思っていること、お願いしたいこと等、積極的に発信していきます。ご期待ください。

『マスクで地区高校総体』
5月8日(土)、9日(日)と地区高校総体が行われました。コロナ対策として、手洗い、そしてマスクをしながらの試合でした。試合の勝敗とともにコロナ感染にも気をしながらの試合は、とても大変でした。しかし、昨年度は大会が中止になり、悔しい思いをしたので、大会に出場できることに感謝し、精一杯頑張ることができました。県大会の成績も期待してください。

北村山高校 千年桜 計画

徳良湖物語 Episode1「徳良湖築堤秘話」

貧乏な尾花沢を
何とかしなければ

尾花沢は昔、カヤの原(＝尾花、ススキに似た植物)や桑が生い茂る荒地ばかりでした。カヤっぱらをそのままにしている尾花沢は貧乏なままだと、一念発起してたくさんの土地を田んぼに開墾し、水源確保のため徳良池を造ろうと立ち上がったのが34歳の高宮常太郎(たかみや つねたろう)氏でした。大規模な計画だったため、大勢の協力を得てプロジェクトは進行し、大正8年9月27日からついに築堤工事が始まりしました。



一大プロジェクトを
なし遂げた常太郎氏って
どんな人



「自分の持つ能力の限界をよく知り、それを超える面は、それを為し得る人物を見つけて依頼するという特徴があり、彼が事業を成功させた鍵であった。もし彼が自分の力を過信し、単独でやるうとしても成立が難し

かったらう」(徳良湖と花笠音頭 星川茂平治氏著)と、様々な人の協力を得て事業を進めた常太郎氏の手腕は高く評価されています。

また、常太郎氏のお孫さんの徹哉氏に、どういふ人物だったかを伺ったところ、「私にとっては、孫をかわいがってくれた、いいいいちゃんでした。県議会議員だったため、県知事などが訪ねてくることもあり、そういう時はえらいいいちゃんだと思いました。土地を買ってほしいと頼まれて困った人の土地を買ったりして、尾花沢の人からは頼りにされていきました」と偉ぶることのない常太郎氏の温厚な人柄を教えてくださいました。

徳良池への期待

常太郎氏は、将来、徳良池は観光地になるだろうと見通し、周囲に桜の木などを植えました。その予想通り、四季折々の景観を見せる徳良池は、現在「徳良湖」として市民や観光客が集う憩いの場所になっています。



▲徳良湖畔に建立されている高宮常太郎像

首都圏だより エフエム放送局、できました!

Letter from Metropolitan Area

首都圏尾花沢会とふるさと尾花沢とを結びつける手段として、18年前より計画していたエフエム放送局がついに本年3月に開局しました。万歳、万歳、万歳! 88・7MHzラジオ川越。



首都圏尾花沢会理事長
尾花沢市民歌作曲家
加藤 恵子 さん
(丹生出身)

今や、インターネットやSNSで世界が繋がる時代となり、「ふるさと尾花沢」を特集する番組も、全世界に配信紹介することができるようになりました。ラジオ局のある埼玉県にもたくさん尾花沢ファンや出身者があり、首都圏と尾花沢とが繋がる番組作りが大変楽しみです。

コロナ禍でなかなかふるさとに行くことができない現在、新しい交流方法が生み出したことは誠に喜ばしい限りです。準備が出来次第、収録配信予定です。

身近なニュース、地域の自慢話、尾花沢の皆さんに大勢参加していただきたいので、出演の準備をお願いしますね。インタビューには皆さんのスマホも使用できるんです。公共放送の活用で、若い方々にもどんどん参加していただき、一緒に尾花沢を盛り上げていきましょう。



梅雨の晴れ間にのぞく青空が眩しく、早苗は風にそよぎ、新緑のコントラストが色鮮やかな季節になりました。

去る、6月7日、オリンピックの聖火リレーが行われました。尾花沢中学校吹奏楽部の賑やかな演奏を皮切りに、源流花笠踊り保存会による花笠踊りが披露されるなど、お祝いムードに包まれながら、8人の聖火ランナーが市役所から北町児童公園までの約1.7kmを駆け抜けました。オリンピックの聖火は、平和や希望の象徴とされています。東京2020の聖火リレーのコンセプトは「Hope Lights Our Way / 希望の道を、つなごう。」です。新型コロナウイルスの感染拡大により1年延期となりましたが、聖火による希望の火が本市を明るく照らしたことは市民の皆様の記憶に深く刻まれたことと思います。



市長コラム

さて、6月13日には「花のかけはし事業」が行われ、北村山高校生や地域の団体の方々などから日々草とハケイトウの植栽をしていただきました。本市が全国でも珍しく「花」という漢字が入っている市であることから、「花」にこだわった取り組みで地域を盛り上げようと平成15年から始まった花の植栽活動は、今年で19年目を迎えます。市民の皆様や市外の方からも「花」がつく市にふさわしいまちとあっていただけるよう、今年度整備を予定している徳良湖の花畑も含め、環境の整備と観光地としての魅力向上を図る事業に取り組みでまいります。今後ともご協力をよろしくお願ひします。

尾花沢市長 菅根 茂雄